ハーヴァード大学ホートン・ライブラリー蔵フェノロサ資料(I) ―序―

村形明子

明治11年（1878）いわゆる御雇外国人としてアメリカから招かれた Ernest F. Fenollosa（1853―1908）は，今年で来日百周年を迎える。東京大学で政治学，世態学（社会学），理財学（経済学），哲学などを講じるかたわら，日本美術の研究・収集で一家をなし，東京美術学校の創立から帝国博物館設置に至る我が国美術行政の草創期に活躍したその事蹟やボストン美術館に持ち帰った海外屈指の日本絵画コレクション等については，更めて述べる必要もないであろう。

日本のフェノロサ研究は主として美術史の分野で進められてきた[1]が，内外英米文学界の関心は周知のように，Ezra Pound の編集により没後紹介された謡曲および漢詩の英訳[2]に専ら集中しているようである。事実，この高名な詩人の仲介がなければ，Mary McNeil Fenollosa[3]が夫の遺稿を *Epochs of Chinese and Japanese Art: an Outline History of East Asiatic Design*, 2 vols.（1913）のように自らの手で出版することがなかった限り，フェノロサの文学的貢献は一篇の詩集 *East and West, The Discovery of America and Other Poems*（1893）にとどまったかもしれない。しかも，パウンドの紹介によって知られるフェノロサの英訳草稿は，日本語も中国語も専門的に解さなかったフェノロサ自身の手になるというより，むしろ日本人協力者（漢詩は森槐南と有賀長雄，謡曲は禿木平田喜一）の原訳に全くといっていいほど依拠していたようである。[4]

しかし，未亡人がパウンドに託した謡曲英訳遺稿が第三者の素訳にすぎなかったとしても，またパウンドが自ら手を加えて発表したその一部を “re-creation” に値する改作と自負[5]しても，フェノロサ本来の面目には無関係な筈である。この場合，フェノロサの功績はむしろ彼が美術のみならず，広く東洋の思想，文学，芸能を含む精神文化全般に向けた真摯な関心と西洋世界に対するその germinal な影響にあるといえよう。パウンド自身，イマジスト詩人としてフェノロサのエッセイ “The Chinese Written Character as a Medium for Poetry” に大いに啓発され，これを An Ars Poetica と題して称揚している。[6]
フェノロサにとって問題なのは，東洋美術史，浮世絵史の大著以外彼自身の著作――その大半は雑誌論文や講演である――が余り顧みられることがなく，19世紀から20世紀への転換期に特異な生涯を生きた思想家，文筆家としての全体像が総合的に評価される機会に恵まれなかったことであろう。

パウンドはフェノロサを「自覚せず，知られざる先駆者」[)]と呼んだが，フェノロサ自身は西洋世界における使徒，予言者としての自らの役割を明確に認識していた。12年に及ぶ日本政府御雇の任を果たして帰国，ボストン美術館中国・日本美術部 curator に就任した翌年，1891年5月1日付の自己宣誓書ともいうべきマニフェストは，当時のフェノロサの高邁な抱負と強烈な使命感を髣髴せしめる。

1．いかに私が東洋の過去の文明に共鳴しようとも，私は今生において西洋人であり，西洋文明発展のために私の役割を果たさなければならないことをまず銘記すべきである。

2．私の生涯の仕事が只の学者や好古家，あるいは単に正確な事実のために過去を尋ねる歴史家の狭い枠にとどまってはいけないことも銘記しておかなければならない。……未来の形成こそ私の目的でなければならない。

3．……予言者，改革家としての使命において，……私は主題を哲学的に把える自分の力を利用し，明快にして深遠な理論に拠って世に訴えなければならない。……冗長を避け，軽妙で機知に富むというわけにはいかないから，文体の文学的卓越を魅力の源泉とし，私の著作の一片一片を時宜的熱弁ではなく芸術的珠玉にしあげなければならない。そうすれば，その価値は永遠のものとなるであろう。

5．……私はヘーゲル研究に立ち帰り，現代心理学の進歩について情報を得，それらを仏教神秘主義〔密教〕の基礎の上に総合しなければならない。ここに知的基盤を確立した後，この出発点を通って憚ることなく密教観の土台から建設に向かうことができるだろう。私はここで説教師となり予言者となって，人間の経験の中のあらゆる高尚なもの，鼓吹的なものに訴えなければならない。守備にまわるのではなく攻勢に立ち，キリスト教説教師の専門用語や公式でも東洋の仏教のそれでもなく，その双方を人間的経験と理性との共通の普遍的言葉に翻訳しなければならない。

6．この項目の下に，私は仏教および東洋的観念性一般の歴史的理論的知識の利用を許されねばならない。

9．私は全空間芸術における芸術的創造の完全で緊密な理論を展開し，これと音楽や詩との類似や相違を明らかにすべきである。そして，これらのあらゆる技術的な点を東洋および西洋美術の実例によって例証しなければならない。

10．しかし，ここで私は芸術的観念性が主題の要素に属する度合と方法の問題を解決しなければならない。ここで宗教論を援用し，全体的社会機能に対する芸術の関係を強調しなければならない。そしてここに，今日いかなる主題が対象として価値をもち，また採択を待っているかを大衆のために新たに認識する私の仕事の可能な範囲が含まれるのである。このよう

な実際的方法における高邁な著作を通じ，アメリカ的精神や状況の最高の潜在的理想を把え，それらを実現するための実験的努力に役立つ批評を行うことで，私の力を発揮しなければならない。ここで，私は国民のための実際の予言者とならなければならない。

12，……芸術の機能は貧者の運命に光明と喜びをもたらし，社会的再編成は日本の農民のように趣味涵養の余暇を与えるものでなければならない。……何よりも我々の理想に菩薩精神を発展させ，それを現代人における化身とともに高邁な非人格的形式において表そう。平和，寛容，人間的協約や調停，同胞愛に役立つあらゆるものを賛美しよう。こうした個人的社会的諸原則が自然のあらゆる美しく意味深いものに象徴されるのを見ることを，東洋から学ぼう。美しい風景の言葉で説教をし，心にくい花の表現を通じて精神的香油を施そう。装飾におけるすべての暗示に予言の尊厳を与え，我々のまわりの新たな芸術を，これを美化する精神的力で半ば非物質化された新しい自然に作り上げようではないか。[8)]

筆者は本年1月25日急逝された美術史家隈元謙次郎氏の御依頼で，ハーヴァード大学ホートン・ライブラリー蔵フェノロサ資料—上記の引用はその中の一点から—の編集・邦訳の仕事に数年来協力させていただいてきた。[9)]後出のように，同資料には図画教育調査会，東京美術学校，奈良・京都の古社寺宝物調査，帝国博物館等美術行政全般にわたるフェノロサの係り合いに照明を与える資料や，従来抄訳ないし大意の形でごく部分的にしか知られなかった鑑画会等における諸講演の草稿が含まれており，美術史の分野における従来の盲点を埋めるものとして貴重である。また，フェノロサの芸術論は Fine Arts の一部門としての文学論，特に詩論を包含しており，[10)]京都で詠んだ “Ode on Reincarnation,”[11)]東京高等師範学校における英語講義 “Preliminary Lectures on

the Theory of Literature"[12] などとともに英文学の観点からも興味深いものが少くない。内外におけるフェノロサ再認識の動きに一つの契機を与えるものであろう。

本稿が故隈元氏に託された同資料のマイクロフィルム焼付コピーに基いてまとめたものであることをお断りするとともに，このささやかな一文を氏の御生前完成に至らなかった同資料刊行を目ざす努力の一環として加え，氏の学恩に報いたいと願うものである。またこれまで同資料原文を紹介する機会がなかったが，今後本誌の頁をお借りして未紹介の transcription を発表させていただき，諸兄の御批判を仰ぐことができれば幸甚である。

1) 小高根太郎「アーネスト・エフ・フェノロサの美術運動１〜３」『美術研究』(昭和16年２〜４月)，久富貢『フェノロサ，日本美術に献げた魂の記録』(理想社，昭和32年)，栗原信一『フェノロサと明治文化』(六芸書房，昭和43年)，隈元謙次郎編『御雇外国人・美術編』(鹿島出版会，昭和51年) 所収拙稿「アーネスト・フェノロサ」など。最近埼玉大学教養部山口静一氏が綿密な資料調査に基く意欲的諸研究を同大学紀要(人文科学編，外国語学文学編，HERON，昭和46年〜 ）に精力的に発表され，注目を集めておられる。それらの抜刷をお送り下さった同氏に感謝と敬意を表したい。

2) *Cathay, translations by Ezra Pound for the most part from the notes of the late Ernest Fenollosa and the decipherings of Professors Mori and Ariga* (London: E. Mathews, 1915); *Certain Noble Plays of Japan, from the manuscripts of Ernest Fenollosa, chosen and finished by Ezra Pound, with an introduction by William Butler Yeats* (Churchtown, Dundrum: Cuala Press, 1916); *Noh, or Accomplishment, a Study of the Classical Stage of Japan, by Ernest Fenollosa and Ezra Pound* (London: Macmillan, 1916).

この方面の最近のすぐれた研究である長谷川年光氏「フェノロサ-パウンドによる謡曲『錦木』の英訳をめぐって」『英文学評論』35 (March, 1976), Yukio Oura, "Purgatorial Dreaming Back in Yeats's *Dreamimg of the Bones*," *The Humanities* 24 (1978)，大浦幸男氏編『イェイツの世界』(山口書店，昭和53年) 所収長谷川年光氏「イェイツと能—夢幻劇の構造と劇作法をめぐって」に接し，今後の筆者自身の研

究のあり方について貴重な示唆を得させていただいた。また山口静一氏「フェノロサの能楽研究―アメリカにおける能楽論講演を中心として―」HERON, 11 (1977), 高田美一氏「詩の媒体としての漢字考―パウンドの芸術論の背景に関する考察・パウンド vs. フェノロサ」『跡見学園女子大学紀要』10（昭和52年）に学ぶところが多い。

3) Sidney McCall のペン・ネームをもつ女流作家として，*Out of the Nest; a flight of verses* (1899), *Hiroshige, the Artist of Mist, Snow and Rain* (1901), *Truth Dexter; a novel* (1901), *The Breath of the Gods* (1905), *The Dragon Painter* (1906), *Red Horse Hill* (1909), *Blossoms from a Japanese Garden; a book of child-verses* (1913) 等の著書がある。Caldwell Delaney 氏（前川哲郎氏訳）「フェノロサ夫人と日本」（昭和53年11月2日，大津市主催フェノロサ来日百周年記念講演会）参照。

4) フェノロサは日本美術研究の初期から，東京大学学生岡倉覚三や有賀に文献の英訳を依頼していた。再来日期の謡曲の英訳については，東京高等師範学校卒業後同付属中学教師としてフェノロサの同僚であった平田の下訳に頼った。平田およびそのフェノロサとの関係については後記参照。

謡曲の原作とパウンド＝フェノロサ訳との相違はしばしば指摘されてきた。パウンドが「中国は fundamental だが，日本はそうでない。……フェノロサの日本関係遺稿に興味深いものがない，という意味ではない……が，中国は充実している」(Pound to John Quinn, 10 January, 1917. D. D. Paige ed. *The Letters of Ezra Pound: 1907-1941* 〔London: Faber & Faber, 1950〕, p. 155) と言ったのは，漢詩と謡曲の訳稿自体の質的優劣に帰すべき点も少くないのではないだろうか。東京帝国大学漢文学教授森やフェノロサの翻訳助手としてヴェテランの有賀の協力を得た前者と，既に文壇に活躍していたとはいえ，能楽は専門外の平田の下訳にすぎない可能性の強い後者とを比較すれば，開きがあるのは当然であろう。このことは，後記に引用した平田自身の回想からもある程度察せられる。

5) Pound to Harriet Monroe, 31 January, 1914, *The Letters*, p. 69. この部分を矢野峰人氏は「この翻訳が単なる翻訳の範疇に入れらるべきものでなく，正に『再創造』(recreatin) の仲間入りをすべきであると説いた」ものと解釈されている（「フェノロサと平田禿木―能楽の英訳をめぐりて―」『日米文化交渉史』4. 木村毅編「学芸風俗編」〔昭和30年，洋々社〕．465頁）。しかし，同じパラグラフで，パウンドは "The earlier attempts to do Japanese in English are dull and ludicrous. That you needn't mention either as the poor scholars have done their bungling best.

One can not commend the results. The best plan is to say nothing about it. This present stuff ranks as re-creation." と喝破しているのである。パウンドのいわんとするところは "*my* re-creation" の意味であろう。

6) このいわゆる「漢字考」におけるフェノロサの先駆的ヴィクトリア朝詩文批判の側面を,「編者の威光から解放」して再評価しようとする最近の指摘は,一考に値するのではないだろうか。Loy D. Martin, "Pound and Fenollosa: the problem of influence," *Critical Quarterly*, XX, 1 (Spring, 1978), p. 59.

7) Foreword to *The Chinese Written Character as a Medium for Poetry* (1936).

8) I must take a *broad view* of my position in *America*.

1st. First, I must remember that, however much I may sympathize with the past civilizations of the East, I am in this incarnation a man of Western race, and bound to do my part toward the development of Western civillization.

2d. I must also remember that my career must not be the narrow one of a mere scholar or antiquarian, or a historian who burrows in the past for mere accuracy of fact. I must cast my desire to compete with European authorities, as a great scholar in the history of Japanese art— I must feel that all my knowledge of art, theoretical and practical, and of its history, is only so much capital for realizing actual production now in the present and here in the West—I must always deduce its practical lesson, and treat of our materials as practical models. To mould the future ought to be my aim.

3d. But in my mission as prophet and reformer, I must keep clear from politics and parties, and rely on reason. I must here utilize my power of grasping a subject philosophically, trusting to the combined clearness and profundity of my reasoning to obtain a hearing. But it will not do to degenerate into a merely philosophical writer— I must avoid dulness; and since I cannot be light and witty, I must rely for attractiveness on literary excellence of style; and make every bit of my writing, not an opportune harangue, but an artistic gem —In this way its value will have permanence—

4th. To be truly American, I must learn to seize the peculiar elements of excellence which lie in the American character and intellect— I ought to be a leader of people.

5th. In this broad way of working, there must be no attempt to ignore the great

theoretical groundwork— I must demonstrate my right to be a power in the world of philosophical opinion. I must go back to my work on Hegel, I must inform myself on present psychologic progress, and I must bring them together on the basis of Buddhist mysticism— Here, having established intellectual foundations, I may afterward pass beyond this beginning, and fearlessly construct on the basis of the mystical view— I must here become a preacher and a prophet appealing to all that is noble and inspiring in man's experience; not stand on the defensive, but on the aggressive; not with the nomenclature and formulae of Christian preachers, nor with those of Eastern Buddhism; but translating both into a common universal language of human experience and reason—

6th. Under this head, I must be allowed to utilize my historical and theoretical knowledge of Buddhism, and of Eastern ideality in general—

Under it also, I must utilize my knowledge of sociological dynamics. I must develope in outline a philosophy of history— and under this must come in a thorough reconciliation between the individuality which lies at the basis of creative effort and of democratic organization, and the sociality and brotherhood which are the very substance of spiritual life and organization.

7th. But it is in the direction of Fine Art that my most important practical work must be done— I ought to try to make myself *the* writer on Fine art in modern times. I must always be more of a *writer*, than a practiser, or an actual educator— In practical matters my function should be that of a true critic.

8th. I should found my theory of art in the very depths of mystical individual human faculty, and in the laws of the sociologic development of history— I should give it the very greatest breadth and scope— And I should make my knowledge of the History of Eastern art, only so much example to enforce my universal precept— I should also point out when, and in how far Western art has been thus profoundly based, and what are its shortcomings—

9th. I should unfold the whole intimate theory of artistic construction in all the space arts, enforcing fully analogies and differences between these and music or poetry— And I should illustrate *all* these points of technique with actual examples of Eastern and of Western art—

10th. But here I must solve the problem of the extent and the way in which

artistic ideality belongs to the element of *subject* as such— Here the religious theory must be made to do service; and here the relation of art to comprehensive social functions must be enforced. And here will come in a possible breadth of my work, in realizing anew for men what subjects are worthy of and waiting for treatment at the present day— Through lofty writing in this practical way, seizing the highest latent ideals of the American mind and situation, and helpfully criticising tentative efforts to realize them, my power must come— Here I must be an actual seer for my race—

11th. Still more minutely practical will come in my efforts to promote good art-education— my analysis of constructive art must furnish the key to a progressive theory; and the wealth of model in our museums, Eastern and Western, must be sifted to furnish examples. Here the tael of infinite, tentative effort must come into play; especially in adapting such system to the youthful intellect, and general educational conditions of the public schools.

12th. But, since in the long run the power successfully to pursue any high ideals depends on *character*, the art function must be duly subordinated to, or rather synthesized with, all efforts toward moral and political construction. We cannot ignore the great economical questions of the day, nor the terrific problem of the world's suffering, sin, and disease. Any undue art development which turns away the mind from sympathy with these must be a failure. But the function of art must be so used as to brighten and gladden the lot of the poor, social rearrangement giving them leisure to cultivate taste, like the Japanese peasant. By giving them more highly skilled manual and artistic education, we shall also give these very laborers the power to assist in the beautifying of our cities and homes. But chiefly the very religious ideals which should be the body and inspiration of this new art should be *brotherhood* and *sacrifice*. As Millet dignified the peasant, let us expound the actual glory of all common human nature. Let us represent the poverty of Christ's surroundings, and let us erect into new Christs the great philanthropists of the day— Let us above all develope in our ideals the Bodhisattva spirit— Let us depict it in its lofty impersonal forms, as well as in its contemporary human incarnation. Let us glorify all that makes for peace, toleration, human conventions and arbitrations, brotherly love— Let us

learn from the East to see these individual and social principles symbolized by every beautiful and significant thing in nature— Let us preach sermons in terms of beautiful scenery, and dispense spiritual balm from our delicate renderings of flowers— Let every suggestion in our decoration be dignified by its prophecy— Let us make the new art about us a new nature half dematerialized by the spiritual force with which it is transfigured—

May lst, 1891

(挿図3参照)

9) 同資料の日本紹介の経緯については隈元謙次郎編・村形明子訳「ハーヴァード大学ホートン・ライブラリー蔵アーネスト・フェノロサ資料・I」(『三彩』327) まえがきを参照されたい。筆者の拙訳・注解は同誌に昭和50年1月〜52年3月，12回にわたり連載された後，隈元氏の御病気その他の事情から中断された。詳しくは後出カタログ付記参照。

10) Murakata, "Ernest F. Fenollosa's Poems from Japan,"『光華学会会報』(昭和53年5月)，pp. 31—32.

11) Murakata, "Ernest F. Fenollosa's 'Ode on Re-incarnation,'" *Harvard Library Bulletin* (January, 1971). 前掲記念講演会拙講「フェノロサの輪廻に関する頌詩」。

12) 『英文学評論』次号所収拙稿「フェノロサの『文学真説』—ハーヴァード大学ホートン. ライブラリー蔵遺稿 (II)—」。

ホートン・ライブラリー蔵フェノロサ遺稿は大半が鉛筆書の手稿で，一頁に満たない断片から百頁以上のほぼ完全な論考を含む雑多な構成をもつ。年記の明らかなものは1879年7月から1900年12月に及び，フェノロサのいわゆる御雇時代，帰米後，日本再訪期を包含する資料であることが分かる。

同ライブラリーの登録番号によれば，bMS; 1) Am 1759 (1)—(6); 2) Am 1759. 1 (1)—(3); 3) Am 1759. 2 (1)—(110) の約119点からなり， Dr. Ernest Goodrich Stillman が1920年1月ニューヨーク市 Walpole Galleries で購入したものとされている。1) と 2) は以前から Rare Books and Manuscripts 専門の同図書館に登録されていたが，全体の大半を占める 3) は同大学総合図書

館ワイドナー・ライブラリーの一隅に眠っていた分が1971年になって発見され，同年7月ホートンに移管されたものである。今日フェノロサの definitive biography というべき *Fenollosa: the Far East and American Culture* (1963) の著者 Lawrence W. Chisolm が巻末 bibliography に "Walpole Sales Catalogue No. 139, Jan. 27 and Jan. 28, 1920, New York City lists 'Library and MSS. of the late Prof. Ernest F. Fenollosa' on pp. 7—19, 50—60, approximately 200 items" と言及しながら，明らかにその実物を見ていないのは上記の事情によるのであろう。

1)—3) を通じて多くの MSS に二種の蔵書票—フェノロサ未亡人 Mary McNeil Fenollosa (Sidney McCall) の署名入りの From the Library of Professor Ernest F. Fenollosa, at "Kobinata," Southern Alabama[1] と印刷されたもの（挿図1）とハーヴァード大学図書館 Stillman Japanese Collection の一部であることを示すもの[2]（挿図2）——が見出される。また一部に July-October, 1909 の年記をもつメアリのメモが見受けられることから，1908年9月夫の死後遺稿を整理した彼女が，ロンドンでパウンドに託した以外のこれらの草稿を1920年ニューヨークで競売に付したこと，これをスティルマン博士（1908年ハーヴァード大学医学部卒業）が購入し，後に母校図書館に寄贈したらしいこと等の事情がうかがわれる。競売目録の項目と思われる切抜きも，所々に添付されている。

内容的に，これらの草稿は大ざっぱに以下のように分類されよう（詳しくは後出カタログ参照）。

1) 講演，講義，報告書等（完全稿・中小断片・要旨・概要等）

2) 日記，調査メモ，詩

3) 私信，覚え書

4) 雑誌などに寄稿した論評・書簡等

5) 翻訳・聞書

6) 岡倉覚三書簡・草稿

多くの項目に，同遺稿整理のいずれかの段階で作成されたものと思われるタイプスクリプト（必ずしも正確な解読でない部分や脱落もある）が付随している。MS. のみの分については，筆者の解読による TS. を作成した。

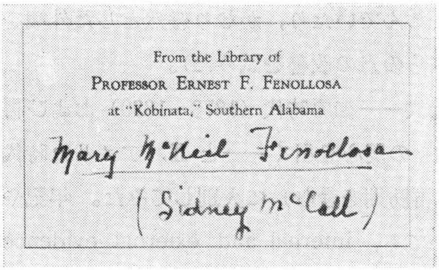
ホートン・ライブラリーの整理状況について一言すれば，3)の移管に際し，"Manuscripts transferred From The Widener Library, July 1971" と題する12頁のカタログが作成されている。これは全体をI. フェノロサ自筆稿 II. 書簡（フェノロサ宛のものを含む）III. フェノロサ以外の筆者の草稿に大別，各項の表題・形状記述に所々略注を付したもので，年記の誤読も二，三あり，Chronological arrangement や項目間相互の綿密な照合はなされていない。大項目（例えば，後出［72］や［97］）の中に新たな分類項目を立てるべきもの，他の関連項目の下に組入れるべきものが混在していたり，共通項目の下にまとめるべきものや同一項目の MS. と TS. とが別々に切り離されていたり，断片が誤って別の項目の一部として紛れこんでいたり，かなり雑然とした外観を呈している（後出カタログでは，これらの点の改善を試みた)。

ここでは便宜上，全体を**I**. 日本時代——御雇時代（1878—1890）および再訪期（1896—1901）で，当然最も我々の関心を引く——と**II**. アメリカ時代(1890年8月以降，日米間を往復した再訪期を含む）に大別してみた。年記や場所の明記がない大部分の項目についても，internal and external evidence から上の分類が大体可能であった。

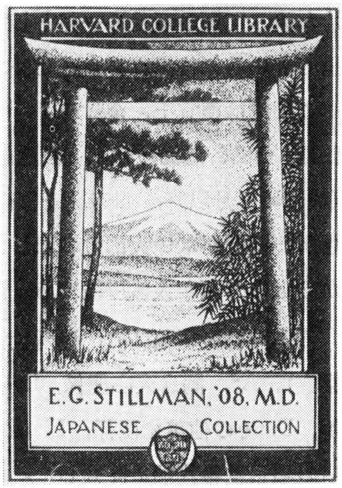
日本時代の草稿はA，美術教育関係（図画教育調査会—東京美術学校—欧米視察)，A*. 岡倉天心関係，B. 宝物調査と博物館関係，C. 鑑画会その他講演等，D. その他美術関係，E. 仏教その他，F. 再訪期に七大分した上，各分類内の項目は年代順に配列した。多岐にわたる公私の活動を平行的に展開してい

た御雇時代の草稿を一律に年代順に列記するよりも，内容の把握のためにはこの方が適当と考えたからである。アメリカ時代の資料は一応年記の明らかなものとそうでないものとに大別したにとどまる。見落し，分類違い等不行届きの点も多々あろうと思うが，諸兄の御叱正を乞いたい。

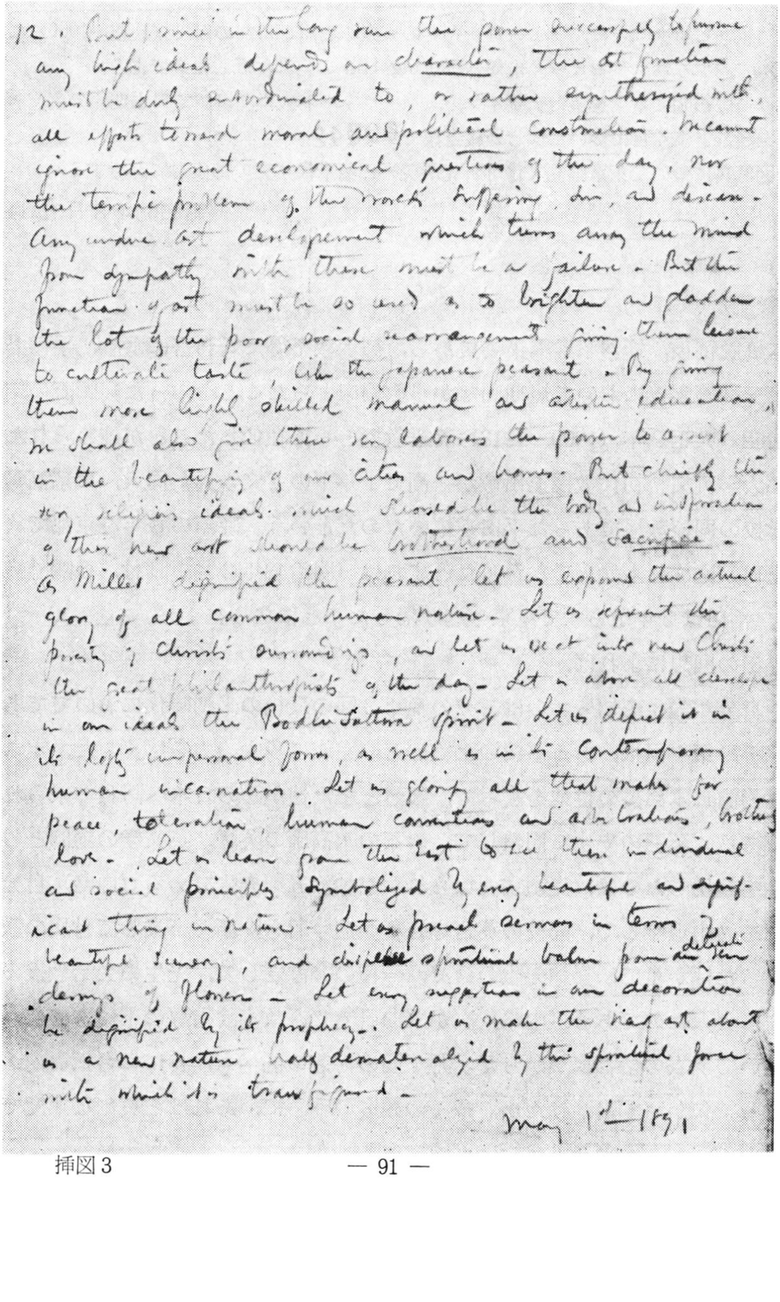
故隈元氏は日本近代美術史研究の観点から重要度の高い項目を優先的に逐次邦訳して行く，という編集方針をとっておられた。今後編集整理を進める上の全体的指針を得るため，筆者自身の覚え書として以下のカタログの形にまとめてみた次第である。表題，注記は原則としてホートン・ライブラリーのそれを尊重しながら，筆者の改訂・補足を加え，既に拙訳その他の形で紹介された一部について関係事項その他を付記した。一項目の草稿余白に偶々別件の重要と思われる書込みのある場合（例えば［91］，［98］）も明記し，項目間の cross reference も必要に応じ記した。



挿図1



挿図2



12. But since in the long run the power successfully to pursue any high ideals depends on character, the art function must be duly subordinated to, or rather synthesized with, all efforts toward moral and political construction. We cannot ignore the great economical questions of the day, nor the terrific problem of the world's suffering, sin, and disease. Any undue art development which turns away the mind from sympathy with these must be a failure. But the function of art must be so used as to brighten and gladden the lot of the poor, social rearrangements giving them leisure to cultivate taste, like the Japanese peasant. By giving them more highly skilled manual and artistic education, we shall also give their very labours the power to assist in the beautifying of our cities and homes. But chiefly the very religious ideals which should be the body and inspiration of this new art should be brotherhood and sacrifice. As Millet dignified the peasant, let us expound the actual glory of all common human nature. Let us represent the purity of Christ's surroundings, and let us erect into new Christs the great philanthropists of the day. Let us above all develop in our ideals the Bodhisattva spirit. Let us depict it in its lofty impersonal forms, as well as in its contemporary human incarnations. Let us glorify all that makes for peace, toleration, human conventions and arbitrations, brotherly love. Let us learn from the East to see then individual and social principles symbolized by every beautiful and significant thing in nature. Let us preach sermons in terms of beautiful scenery, and dispense spiritual balm from the delicate designs of flowers. Let every suggestion in our decoration be dignified by its prophecy. Let us make the very art about us a new nature, half dematerialized by the spiritual force with which it is transfigured.

May 1st 1891

挿図3

1) 「コビナタ」とは，フェノロサ夫妻の東京小石川小日向の仮寓（1899―1900）に因んで，アラバマ州モビール市郊外 Spring Hill の自邸に冠した名である。

2) 鳥居の間に富士を望むデザインで，ハーヴァード大学図書館で日本関係の英文著書を繰るとよく目についた懐しい蔵書票である。

挿図写真について東京国立文化財研究所美術部関千代女史の御協力に感謝する。

（昭和53年８月31日）

（後記）

本稿脱稿後，蜂谷昭雄編集委員から，御示教を得た新刊書により，平田禿木が第三高等学校において短期間ながら教鞭をとったことを知った。調査の結果，明治42―大正２年（1909―1913）英語教授として在任したことが確められた。[1] 京都大学英文科初代教授上田敏が一高で１年下の『文学界』同人，東京高等師範学校の同僚教授であった平田を招いたのだという。[2] 晩年の８年を京都で終えた上田が必ずしも幸福でなかったとすれば（明治43年２月１日付，森鷗外宛書簡），平田は２年足らずで東京へ逃げ帰ったことになる。

平田の回想によれば，

「自分が先生を知ったのは，その晩年２回の最後の来朝時代においてであった。その第１回は，ある事情のため，その完成に多大の力を尽くした，ボストン博物館日本部長の位地を去って，飄然とまた懐かしの日本へ訪ねて来られたのである。不遇の先生に同情して，お茶の水高師の英語，英文学の講師として先生を起用したのは，先頃亡くなられた嘉納治五郎先生である。(中略）自分は一高を途中退学して，同校の英語専修科へ辿り着き，漸く卒業して付属の教師となったばかりで，嘉納先生の命で，一種の介添として，先生の会話教授の席へ立ち会ったのである。(中略）次が謡曲研究で，故実翁指導の下に，梅若六郎を招いて羽衣の稽古にかかった。月１回の梅若の能へも，特に舞台正面前へ席を取って欠かさず出かけたが，多くの観客のうちに，あれほど真剣な態度で自

分の技を見てくれる者はないと，実翁も云っていた。番組の曲は，自分の口授で一々その梗概を用意して行った。羽衣だけは一曲上げて相当に謡われたが，訳の方もこれだけは全曲逐次訳で出来上がった。その他の曲では，錦木に非常な興味をもち，これも幾分訳しく訳したが，どことなくロゼッティの面影があると云って喜んでいた。謡曲の掛け言葉にも興味をもち，メーテルリンクはそれを思想の上でやっていると云われたが，あとで「ペレアスとメリサンド」などを味読して，その卓見に感服した。以上の訳稿は後フェノロサ夫人からエヅラ・パウンドを経てイエーツの手へ渡り，その「日本能劇選集」となって限定版でアイルランドで出版され，やがてその「鷹の井」その他，舞踊を取り入れた氏の新劇数篇を生む機縁となったので，蕪雑な自分の青年時代の努力も全然無益でもなかったといささか嬉しく思った。

万三郎，六郎両氏の舞台姿もカメラへ収めて先生はアメリカへ帰ったが，帰米早速にこの日本能楽を主題に米国各地を講演してまわって，多大の成功を収めたらしい。1，2年してまた来朝し，米国の知識社会は今，絵画のような目に訴えるものばかりでなく，心に訴える東洋文学に目覚めるようになって来た。今度はこの方面を開拓するつもりであると，森槐南氏に請うて，自分を介添に，詩を主とする支那文学史を講じてもらうことになった。ちょうどこの頃のような盛夏であったが，先生は毎日のように，その滞在していた横浜のホテルから出て来て，赤坂霊南坂の旧枢密院議長官舎，当時の帝室制度調査局へ寄って，その一員としてそこへ出勤していた槐南先生の講義を聴いた。槐南先生の該博な学殖，その博覧強記にも驚いたが，何らの草稿も持たず，ただ実例となるべき詩の選集を前に，滔々と歴代の推移を述べ立てるその能弁にも舌を捲いた。かくして夏一と月ほどの努力を続け，秋風立ち初むる9月半ばに立って行かれたので，その時横浜埠頭で袂を別ったのが自分が先生と相見た最後であったのだ。(後略)〔現代仮名遣いに訂正〕」(〔昭和〕13年7月30日)[3)]

1）「明治42年9月7日　任教授，学習院教授平田喜一」『嶽水会雑誌』（明治42年），94頁。平田は44年1月31日付で休職（同誌44年. 131頁），大正2年1月30日「休職満期ニ付キ退職」した（同誌大正2年，13頁）。

2）矢野峰人氏『日本英文学の学統―逍遥・八雲・敏・秃木―』（研究社，昭和36年），201頁。

3）「フェノロサ先生」『文芸春秋』第16巻15号（昭和13年9月），41―43頁。

The Ernest F. Fenollosa Manuscripts at the Houghton Library, Harvard University

by MURAKATA Akiko

Editor's Note

1 In the following catalogue, the simply parethesized numbers show the Houghton Library catalogue numbers under the entry bMS Am 1759. 2 ; ( )[0] and ( )[1] refer respectively to the entries Am 1759 and Am 1759. 1.

2 The erased or cancelled words by Fenollosa, if significant, are reproduced between double vertical bars.

3 Square brackets enclose my editorial interpolation.

4 Articles published in 『三彩』 (the *Sansai*), cited below, are products of collaboration by the late KUMAMOTO Kenjiro and the present editor.

I. The Japanese Manuscripts, relating to the years 1878-90 and 1896-1901

A. Papers and letters on art education (Tokyo Art School—Fine Arts Commission) ; the heading B may overlap some entries under this.

Advantages and disadvantages of introducing Japanese Drawing into Public Schools. 〔Outline and a draft of the paper presented at the meeting, 6 December, 1884, of the Committee to Study Art Education, Ministry of Education〕. (6 & 7).

A. MS. 3p. & 6p.

〔Referred to in Okakura's letter to Fenollosa, A*-b) below.〕以下四編文

部省図画教育調査会用試案。「日本式毛筆画を公立学校に採用することの得失」『三彩』329 (March, 1975), pp. 63-65.

〔Evaluating drawing〕. 〔Another paper presented before the same committee〕. 13 December, 1884. (27).

A. MS. 5p.

「図画の用途と方法」『三彩』329 (March, 1975), pp. 65-66.

The Importance of Art. 〔c. Early 1885〕. 〔Another paper presented before the same committee?〕 (38).

A. MS. 15p.

「美術の重要性」『三彩』355 (March, 1977), pp. 94-96.

Remarks on Art Method. April, 1885. 〔Another paper presented before the same committee〕 by Professor Fenollosa. (83).

〔Dated TS. with slight revisions of "Drawing in Education." (22); A. MS. 10p.〕. 9p.

「美術的方法に関する意見　フェノロサ教授」『三彩』329 (March, 1975), pp. 66-69.

Letter to the Editor of the *Nation* 〔January 1886?〕 (104).

A. L. 7p.

〔The proposals for a new art administration in Japan〕. 〔Before 23 March, 1886〕. (79).

A. MS. 8p.

Abstract of Subjects for Report. 〔c. First half of 1886〕. (72).

A. MS. 2p.

Comments on the Unfinished Report of 1886. Begun 2 December, 1887. (16).

A. MS. 5p.

〔Report of Fine Arts Commission〕. 〔c. End of 1887-1888〕. (86).

A. MS. 13p.

The Fine Arts Commission to Europe and America. 〔c. 1888〕. (28).

A. MS. 7p.

Letters to 〔MORI Arinori (1847-1889), Minister of Education〕;

a) 〔Before 8 February, 1888〕. (72, 85, & 102).

A. L. 〔disguised as a third person〕. 8p. (of which 4p. are overlapping fragments).

〔Referred to in Okakura's letter, A*-c) below〕.

「森有礼宛書簡」『三彩』331 (May, 1975), pp. 97-98.

b) 〔After 8 February, 1888〕. (101+78, "Proposals for the new Fine Arts Academy").

A. L. 4p. +11p.

「森有礼宛書簡」『三彩』331 (May, 1975), pp. 96-97+334 (July, 1975), pp. 59-61.

前者の末尾の最後のパラグラフに相当する部分は下記 (105) を誤って接続・訳出したもので, 本来後者に連続すべきものである.

Letter to 〔ITO Hirobumi (1841-1909), Prime Minister〕. 〔After 10 February, 1888〕. (103).

A. L. 3p.

「森有礼〔伊藤博文の誤り〕宛書簡」『三彩』331 (May, 1975), pp. 98-99.

Letter to 〔KANEKO Kentaro (1853-1943), Fenollosa's personal friend and advisor to Ito〕. 〔c. Prior to writing the above letter〕. (99).

A. L. 4p.

〔Notes related to the above letters〕. 〔c. Early February, 1888〕. (97).

A. MS. 1p.

注解『三彩』334 (July, 1975), pp. 64-65.

Letter, fragment. 8 October, 1888. (105).

A. L. s. 1p.

前掲「森有礼宛書簡」『三彩』331 (May, 1975), p. 97.

Plans for the Art School: miscellaneous drafts and fragments. 〔c. 1888-89〕. (72).

a) Departments 〔and plans〕. A. MS. 5p.

b) 〔Buildings〕. A. MS. 1p.

c) 〔Art Schools〕. A. MS. 2p.

d) 〔List of expenses〕. A. MS. 2p.

e) 〔Regulations〕. A. MS. 1p.

f) Diagrams, drafts and sketches on line, *notan* and color. A. MS. 70p.

Outline of a Scheme for Education in Drawing. (74+72). 〔c. 1888-89〕.

A. MS. 5p. +2p.

Lectures at the Art School;

a) 〔Address on art education in Japan; opening lecture〕. 〔c. Last week, February, 1889.〕 (5). A. MS. 13p.

b) 〔The future of Japanese art〕. 〔c. 1889〕. (33). A. MS. 5p.

The Century Gallery of Italian Masters: letter to 〔the Editor of a Japanese magazine?〕; synopsis of Stillman's Article on Cole. c. February-March, 1889. (15+90).

A. L. 6p. +A. MS. 1p.

Cf. W. J. Stillman's articles and Timothy Cole's woodblock reproductions, *Century Magazine* (November & December, 1888; January, 1889).

Frederick Harrison on Modern Art; synopsis of Article on 〔"A Few Words about〕 Picture Exhibitions," 〔*Nineteenth Century* (July, 1888), pp. 30-44;「絵画博覧会論」『官報』(明治22年3月26日—4月2日)〕.

c. March, 1889. (30).

A. MS. 11p.

〔Why the Western style of painting should not be taught in Japanese schools〕. 〔c. 1888〕. (110).

A. MS. 〔in an unidentified hand〕 7p.

「何故西洋画法は日本の学校で教えるべきではないか」『三彩』 329 (March, 1975), pp. 69-70.

A*. Letters to Fenollosa from OKAKURA Kakuzo (1860-1913), Fenollosa's student at Tokyo University and colleague in art administration.

a) 5 December, 1884. (106). A. L. s. 8p.
「フェノロサ宛岡倉天心書簡」『三彩』 327 (January, 1975), pp. 61-62.

b) 8 December, 1884. (107). A. L. s. 11p.
「フェノロサ宛岡倉天心書簡」『三彩』 327 (January, 1975), pp. 62-64.

c) 8 February, 1888. (108). A. L. s. 3p.
「フェノロサ宛岡倉天心書簡」『三彩』 327 (January, 1975), pp. 64-65.

d) 〔The curriculum of the Art School〕. 〔c. 1888〕. (109). A. MS. 2p.

B. Investigating temple art treasures and preparing for the Imperial Museum

〔Description of paintings and other art objects of eleven Kyoto temples〕. 3-7 August, 1884. (1)[1].

A. MS. 〔with sketches〕. 184p.

〔List of 28 Kyoto temples and their art objects〕. 〔c. 1884; related to the above〕. (6)[0].

A. MS. 27p.

〔Report on result of examination of Nara temples〕. 〔c. May, 1886〕. (62).

A. MS. 4p.

[Report from Kyoto; sequel to the above]. [c. May-June, 1886]. (70).

A. MS. 4p.

[Proposals for the Imperial Fine Arts Museum]. [c. July-August, 1886]. (63).

A. MS. 8p.

Arrangement of Materials [for the Museum]. [c. July-August, 1886]. (72).

A. MS. 4p.

Museum Plans. [c. July-August, 1886]. (72).

MS. (in an unidentified hand, possibly of a Japanese translator). 17p.

Letter to Henry M. Alden, editor of the *Harper's Monthly*. 1 May, 1888; [with private notes on collecting for the Museum.] (98).

A. L. s. 4p.

[The recent Fine Arts expedition to the Kinai]. [c. September, 1888]. (29).

A. MS. (in the guise of a third person) 8p.

Conditions under which plans must be drawn for constructing the Building of the Nara Imperial Museum. [c. 1889-90]. (61).

A. MS. 2p.

「奈良帝国博物館（陳列館）建築計画の諸条件」『建築雑誌』XCIII, 1135 (May, 1978), pp. 87-89.

C. Kangakai and other lectures and related manuscripts

Lecture on Art delivered before Tokio Artists; I & II [incomplete]. 10 April, 1881. (1)°.

A. MS. 112p.

「東京の美術家達を前にして行なった美術に関する講演」『三彩』334 (July, 1975), pp. 61-64; 339 (November, 1975), pp. 66-71; 341 (January, 1976), pp. 70-74.

Lecture IV; 〔sequel to the above?〕〔c. 1881〕. (49).

A. MS. 15p.

[講演IV].『三彩』353 (January, 1977), pp. 92-95.

Can Japanese Art be Revived? 〔27 April, 1884〕. (2)°.

A. MS. 44p. 〔TS. (14). 20 p.〕

「日本美術は復興できるか」『三彩』343 (March, 1976), pp. 68-69; 345 (May, 1976), pp. 74-77.

Japanese Painting in the Future. 11 May & 7 June, 1884 〔//6th meeting, June 8th//〕. (46).

A. MS. 35p.

「日本絵画の将来」『三彩』349 (September, 1976), pp. 60-65; 351 (November, 1976), pp. 88-91.

〔List of exhibits; the Shijo school paintings〕. 〔For the 11 May meeting?〕 (55).

A. MS. 2p.

History of Kwangakwai. 〔c. December, 1884〕. (35).

A. MS. 3p. and MS. (in an unidentified hand) 1p.

「鑑画会の沿革・前文」『三彩』343 (March, 1976), p. 66.

Constitution of Kwangakwai. 〔c. December, 1884〕. (18).

A. MS. 21p. 〔two drafts〕

「鑑画会会則」『三彩』343 (March, 1976), pp. 67-69.

Future Articles 〔for the Bulletin of Kangakai?〕 〔c. December, 1884?〕 (31).

A. MS. 2p.

〔The future of historical painting in Japan〕. 〔5 April, 1885?〕 (52).

A. MS. 7p.

Remarks on Japanese Art in general. 〔3 May, 1885〕. (84).

A. MS. 20p.

〔Address〕 delivered at Ibumuraro. 〔19 September, 1886〕. (2).

A. MS. 8p.

The Future of Japanese Art Industries. 〔26 February, 1888〕. (34).

A. MS. 27p.

Relation of Painting to Art Industries; 〔address to Kyoto artists and manufacturers〕. 〔c. May-August, 1888〕.

A. MS. 4p.

D. Other manuscripts on art

Kano Tomonobu's opinion; Kano Yeitoku's opinion 〔of the paintings in Fenollosa's and Dr. William Sturgis Bigelow's collections〕. October, 1882. (47).

A. MS. 24p.

Sumiyoshi 〔Hirokata〕's opinion; Kawasaki 〔Chitora〕's opinion. December, 1882. (89).

A. MS. 5p.

Yamazawa's opinion. 5 March, 1883. (96).

A. MS. 3p.

Translations of *Honcho Gwashi*, vols. 4 & 5 and of *Dzue Hokwan*, vol. 1; 〔with a three-page outline preface to the "Mutual Interrelations of the Asiatic Arts"〕. (91).

A. MS. 100p.

Dr. [William] Anderson's "Pictorial Arts [of Japan (1886)]." [Incomplete draft of an anonymous review of the book in *Blackwood's Magazine*, 141 (1887)]. (21).

A. MS. 4p.

Truth, Goodness, Beauty and the Idea. [Draft for 「霊性の三元素」『哲学雑誌』II, 16 (5 May, 1889) with related fragments]. (93).

A. MS. 6p.

Applied Philosophy. [c. 1889]. (93, 72 & 97).

A. MS. 4p., 2p. & 4p.

[Truth, goodness, beauty and religion]. [Related to the above two entries?] (93 & 97).

A. MS. 5p. & 3p.

[Hishikawa Moronobu]. Fragment. (97).

A. MS. 1p.

[The influence of Japanese art in the West]. [After October, 1887?] (97).

A. MS. 1p.

E. Buddhhism and other miscellanies

[Diary of a trip to Nikko, where Fenollosa and his wife encounter the party of Gen. Ulysses S. Grant, the *ex*-President of the U. S.]. [10-24] July, [1879]. (2)[1].

A. MS. [with sketches]. 54p.

Outline of Sociology; Outline of History of Philosophy; Applied Philosophy—Philosophy of Ethics; Philosophy of Politics; Philosophy of Art; Philosophy of Religion. [Related to Fenollosa's courses at Tokyo University

and partly to (93) and (97) of the preceding heading?] [Before 1886?] (72).

A. MS. 12p.

Studies of Buddhism. 27 June, 1885. (3)[1]

A. MS. 20p.

山口静一「フェノロサと仏教—覚え書—」*HERON* (埼玉大学), 10 (1976), pp. 47-51.

The Future Private Architecture of Tokio at least. [c. 1887-88?] (5)[0].

A. MS. [with plans]. 11p.

Letter to the Editor of the *Light* [written in response to Newton Crosland' misleading allusion to Buddhism in Japan in the magazine (8 June, 1889)]. //28 July, 1889//; February, 1890. (100).

A. L. s. 3p.

F. Revisiting Japan, 1896-1901

Ode on Re-incarnation. [c. August-September, 1896]. (69).

TS. 25p.

Akiko Murakata, "Ernest F. Fenollosa's 'Ode on Re-incarnation'," *Harvard Library Bulletin*, XXI, 1 (January, 1971), pp. 50-72.

Benefit of Commerce in Art Industry for Japan. 26 October, 1896. [Synopsis of an address given at the Imperial Hotel, Tokyo]. (11).

A. MS. 7p.

Bijutsu Kiokwai- Uyeno; [synopsis of an address]. 28 October, 1896. (12).

A. MS. 2p.

The Duty and Opportunity of Japan toward the Whole World; [outline of a lecture]. c. Latter half of 1896. (23).

A. MS. 9p.

〔Notes on fine arts〕. 〔Related to 無名氏「フェノロサ氏の審美所見」『太陽』(5 November, 1896), pp. 150-154?〕 (97).

A. MS. 1p.

Why has a true philosophy of art never yet been written? In commencing a series of articles for the *Sun* 〔『太陽』〕 upon Fine Art. 〔c. October, 1896?〕 (95).

A. MS. s. 8p.

The Abuse of the Nude in Art. 〔Draft of an article for the *Ear East*, III, 24 (20 January, 1898)〕. (1).

A. MS. 2p.

Preliminary Lectures on the Theory of Literature; 〔course of lectures to the graduating class in English〕. Higher Normal School, Tokio. 〔Begun〕 25 January, 1898. (77).

A. MS. 107p.

II. The American Manuscripts, 1890-1901

A. Dated and datable MSS.

Some Lessons of Japanese Art; 〔outline of a lecture delivered at the〕 Essex Institute, Salem. 20 April, 1891. (87).

A. MS. 4p.

Japanese Art; 〔draft of the above lecture〕. (3)⁰.

A. MS. 16p.

〔My position in America; a manifest of mission〕. 1 May, 1891. (60).

A. MS. 4p.

The lessons of Japanese Art- read at Mr. Frothingham's; [for Yale Art School, New Haven]. November, 1891. (54).

A. MS. 17p.

Eastern Art and Western Education. [Outlines and a draft of an address for] the New York Architectural League at Morello's. 7 December, 1891. (25 & 26).

A. MS. 8p. & 5p.

//What Art is- Primary[?] Course//. 26 March, 1892. [Address, revised and published as "The Nature of Fine Art," the *Lotos* IX, 9 & 10 (March & April, 1896)]; printer's copy. (64).

A. MS. s. 47p.

[The History of Japanese Art; the first of three illustrated lectures given at the Academy Hall, Salem]. [19 April, 1892]. (48).

A. MS. 4p.

Oriental Poetry in relation to Art. [Outline of a lecture for] the Folklore Society. 8 June, 1892. (71).

A. MS. s. 4p.

A Comparison of Chinese & Japanese Traits- in their historical development and final results. [Fragments of an article, "Chinese and Japanese Traits," the *Atlantic Monthly*, 69 (June, 1892)]. (17).

A. MS. 4p.

Insufficiency of Modern Conception of Art. [Outline of a lecture given at] Mr. Dow's [School]. 31 January, 1893. (43).

A. MS. 3p.

The Influence of Japanese Art. After 1 May, 1893. (42).

A. MS. 10p.

[Address to the Japanese delegation at the Chicago Fair]. [c. May,

1893〕. (24).

A. MS. 15p.

〔Original preface to *East and West, The Discovery of America and Other Poems* (1893)?; the published preface is dated, 15 October〕. Two drafts. (24).

A. MS. 40p.

Preface to the Second Edition. 〔Related to the above entry, but probably later?〕 (97).

MS. (in an unidentified hand) 2p. (fragments)

〔Fragmentary drafts for "Contemporary Japanese Art," *Century Illustrated*, 46 (August, 1893)〕. (19, 97 & 45)

A. MS. s. 3p., 4p. & 1p.

Influence of General Art-Education upon a civilized people. 〔Lecture at the〕 English High School. 5 January, 1894. (41).

A. MS. 7p.

Influence of Art Education upon the Social and Material Prosperity of a People. 〔Almost the same content as the above〕. (40).

A. MS. 9p.

Patriotism in Art. Remarks at 20th Century Club, 〔Detroit〕. 23 May, 1894. (76).

A. MS. 2p.

Introduction to Nature by Art, 〔lecture〕 given at Mrs. 〔Ole〕 Bull's. December, 1894. (44).

A. MS. 5p.

Anecdote of Weldon〔?〕 and Hearn. 〔Notes on reading Lafcadio Hearn, *Glimpses of Unfamiliar Japan*, 2 vols. (1894)〕. (8).

A. MS. 5p.

[Outline of] address [at] Normal Art School. 27 June, 1895. (3).
A. MS. 4p.

[Address on art education; synopsis of the above address?]. (4).
A. MS. 4p.

[Outline of courses of lecture], 1st and 2nd y[ea]rs, [reg[ular] Art Class, [Pratt Institute, New York]; 1896-7- Courses of Lectures on the Evolution of the Arts of Design- Course of Two Lectures on Oriental Art- Course of Lectures- 1897-8. 18 October, 1895. (73).
A. MS. 8p.

New System of Art Education. [Notes for a lecture]. [After October, 1895]. (65).
A. MS. 9p.

[The Abbey and Chavannes paintings]. [Notes for *Mural Painting in the Boston Public Library* (1896)]. (68).
A. MS. 3p.

Notan. [Notes for art class]. 31 January, 1896. (66).
A. MS. 7p.

[Introducing Prof. Fenollosa in the guise of a third person; fragments]. [c. End of 1896]. (97).
A. MS. 2p.

Notes for a History of the Influence of China upon the Western World. //first// as presented before Seminar A [Professor Friedrich Hirth, Columbia University]- whose special investigation is "The Influence of the East upon English Literature in the XVIII & XIXth Centuries." 18 December, 1900. (67).
A. MS. 145p.

B. Undated MSS., c. 1890-96

[Statement and outline; philosophy of art, history of art, and practice of art]. (32).

A. MS. 2p.

What Art is- Synopsis [of a lecture]. (94).

A. MS. 3p.

[The true meaning of fine arts]. [First lecture at Dow's school?] (92).

A. MS. 12p.

[Notes for] Second Lecture- Analysis and Synthesis [at] Dow's. (50).

A. MS. 4p.

The Individuality of Art. [Third lecture at] Dow's. (39).

A. MS. 6p.

The Relation of Art to Religion. [Fourth lecture at Dow's?]. (81 & 97).

A. MS. 2p. & 7p.

The Relation of Art to Life. [Summary of a lecture]. (80).

A. MS. 1p.

[Imagination; introduction to the old master's paintings to be shown in an art class]. (37).

A. MS. 1p.

Subjects for lectures. (88).

A. MS. 4p.

[Art in public school education]. [Notes for an address written on the Boston Museum note paper]. (9).

A. MS. 6p.

Boston's present opportunity with Japanese art. [Two drafts of a lecture].

(13).
A. MS. 7p.
〔Introducing Mrs. Millward Adams to Boston audience〕. (58).
A. MS. 1p.
〔Art teaching in public schools〕. 〔Notes for a lecture〕. (10).
A. MS. 4p.
〔Lecture on two views of art given at〕 Cornell 〔University〕. (51).
A. MS. 4p.
〔The difference between Eastern and Western art〕. 〔Draft of a lecture〕. (20).
A. MS. 4p.
The Meaning of Fine Arts. 〔Draft of a treatise〕. (57).
A. MS. 51p.
〔Notes on art education in the West〕. (6)°.
A. MS. 2p.
Idealism and Realism. 〔Draft of a lecture〕. (36).
A. MS. 4p.
Course of Nine Entertainments- Course of Fifteen Entertainments. (72).
A. MS. 14p.
〔Five fundamental principles of Buddhism〕. 〔Fragmentary note〕. (72).
A. MS. 1p
〔Subjects for articles or lectures; with some private notes〕. (97).
A. MS. 3p.
Sunshine; 〔fragment of private notes〕. (97).
A. MS. 1p.